

F-26 共働き家庭の生活管理の実態—学童保育についての総合研究 (3)—  
長崎女子短大 楠本淑子 銀杏田弘子 湯川聡子 他6名

目的 (1)に同じ。特に共働き家庭の生活管理面の実態を調査し、問題点をさぐり学童保育の必要性の有無、計画上の留意点などを明らかにすることを目的とする。

方法 (1),(2)に同じ。

結果 ①労働者住宅地域では殊に密接な近所づきあいがある。

②共働きにおける保護者帰宅までの子供の過ごし方は、ホワイトカラー層、ブルーカラー層どちらの層においても老人等が在宅している家以外は、ほとんど子供の自由に任せられている。

③こづかいは、いづれの層においても定期的に与えるより毎日あるいは随時与えられている。

④子供の手伝いが、掃除、ご飯の後片づけ、買物など万端にわたっているが、殊に勤めに出る母親の子供は、ご飯の後片づけ、夕食の仕度など重度の手伝いをしている。しかしながら、母親の満足度は少しは役に立つというのがほとんどで主婦専業の母親とほとんどかわらない。

⑤父親・母親の帰宅時間はほとんど午後5時から7時に集中している。

⑥各層ともパート勤務者より毎日勤務の母親に対する父親の協力が大である。特にホワイトカラー層にその傾向が強い。